

自己実現を基軸としたウェルビーイングの向上を目指す学校経営

佐渡市立畑野中学校
福井 晴人（平成2年度）

＜主張＞
本校は様々な課題を抱えている。学習指導にしる、生徒指導にしる、その課題の原因の一つに、生徒の「自己肯定感」や「自己有用感」等（以下「自己肯定感等」）の低さがあると考えられる。これらは、間違いなく生徒のウェルビーイングの向上を阻害している。本実践では、「ウェルビーイングの向上」を学校戦略に掲げ、「自己実現」に向け「課題解決」と「社会貢献」を主題とした教育活動を展開する。授業では子どもを主語にした「個別最適な学びと協働的な学び」を進め、教科学習で育む「各教科で育む資質・能力（以下「教科能力」）」と、総合その他の活動で育む「学習の基盤となる資質・能力*1（以下「基盤能力」）」が双方で相補的に高められるようなマネジメントを行い、自己実現を基軸としたウェルビーイングの向上を目指す。

*1 文部科学省学習指導要領総則より、基盤能力とは言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の3力を指す。

1. 研究主題設定の理由と学校課題

ウェルビーイングは、これからのサステナビリティな社会を築く上で、重要な概念の一つである。新たな教育振興基本計画でも、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が、大きなコンセプトとして設定された。一方、日本のウェルビーイングの現状はどうか。ポストンコンサルティンググループ（以下 BCG）は、日本の20～40代のウェルビーイングの現状を、OECD加盟国の平均より低く、特に「自己実現」や「未来への展望」といった項目で課題が見られたと報告している【図1】。同グループは、こうした日本型ウェルビーイングの課題の改善のためには、「自己効力感を育む教育の場が必要」と指摘する。

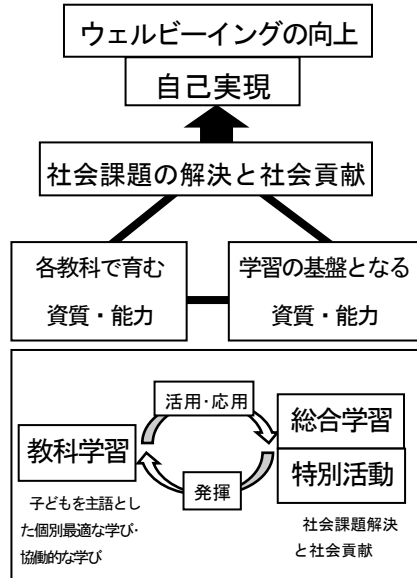


【図1】20～40代のウェルビーイングの現状（10点満点。10・非常に満足 0・全く満足していない）

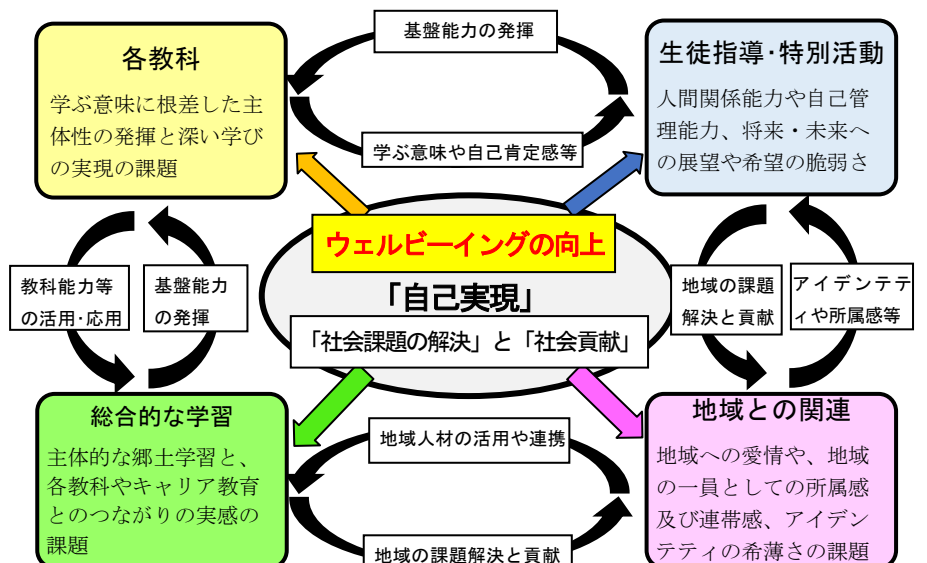
このBCGレポートで指摘された課題は、そのまま畑野中学校にもあてはまる。全国学力・学習状況調査（以下全国学調）の分析より、本校でも「将来の夢目標」の項目で全国比を大きく下回る等、自己実現に関わるウェルビーイングに課題が見られた【資料2】。また、学校評価の結果も併せて本校には次のような課題があるが、こうした「自己肯定感等」の低さがこれらの課題を生み出し、またこれらの課題が「自己肯定感等」の低さを生み出している。

- ① 学習における、学ぶ意味に根差した主体性の発揮と深い学びの実現の課題。
- ② 総合的な学習における、主体的な郷土学習と各教科やキャリア教育とのつながりの実感の課題。
- ③ 生徒指導面における、人間関係能力や自己管理能力、将来・未来への展望や希望の脆弱さの課題。
- ④ 地域への愛情や、地域の一員としての所属感及び連帯感、アイデンティティの希薄さの課題。

これらの課題は、「自己肯定感等」の低さを基盤に互いに影響し合って存在しており、このことから学校教育全体という大きな視点からの改善、つまりカリキュラム・マネジメントが必要だといえる。



【図2】畑野中のウェルビーイング戦略



【図3】畑野中の4つの課題へのアプローチの構造化

2. 課題解決のための方策

方策1 学校運営の最上位戦略を「畑野中の全てのステークホルダー（生徒（保護者）、教員、地域）の自己実現を基軸としたウェルビーイングの向上」と明示し、教育活動の全体の目的とする。【図 2,3】

- 方策1-① センス・メイキングによる教育活動の意味づけと、それを基にしたやりがい作り
- 方策1-② 教職員の自己実現を目指す OKR による教員評価

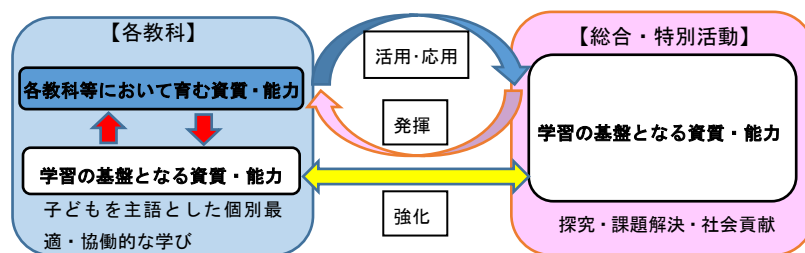
方策2 自己実現の方法を「社会課題の解決」と「社会貢献」とし、「基盤能力」をこれらの方法を通して身に付けられるように、総合的な学習の時間及び特別活動を再編する。【図 2,3】
(カリキュラム・マネジメント1)

- 方策2-① アントレプレナーシップ教育を中心とした探究的な「総合的な学習の時間」の構築
- 方策2-② 学級や学校の課題解決や貢献を主題とした特別活動等の構築

方策3 子どもを主語にした「個別最適な学び・協働的な学び」を推進し、「教科能力」と、総合や特別活動等を中心に育む「基盤能力」の間に、双方向で相補的な高め合う関係を構築する。【図 2,3】
(カリキュラム・マネジメント2)

方策3-① 子どもを主語にした「個別最適な学び・協働的な学び」への授業改革の推進
全国学調の結果から、学力戦略が全ての子どもに浸透していない、学力とウェルビーイングが結びついていない、学力戦略と生活戦略がうまく連携していない等の可能性があることがわかった【資料 1,3】。従来のいわゆる一斉授業では、全ての生徒のウェルビーイングの向上は難しいのではないかと、学ぶ意味を実感できず、学んだことを生活や自分の生き方に活用できないのではないかと考えた。

これらのことから、子どもを主語にした「個別最適・協働的な学び」へ授業改革を進め、基盤能力と教科能力を繋げ、生徒の自己肯定感やウェルビーイングを向上させる手立てが必要だ。そのモデルを、文部科学省「質の高い探究的な学びの実現」(R7.5.22)を参考に【図4】のように整理した。



【図4】個別最適な学びと探究・課題解決する総合等の関係

3. 実践の実際

3.1 方策1-① センス・メイキングによる教育活動の意味づけと、それを基にしたやりがい作り

センス・メイキングとは、活動に意味や価値を与えることである。学校行事や生徒会活動等、学校のあらゆる活動において、生徒にその仕事の意味や価値を示すよう、教職員に指示をした。仕事の意味や価値を知り、やり抜くことで自己肯定感等を醸成し、自己実現に繋げることが出来る。学習についても、授業等で、その学習をする意味や価値を生徒に伝えるよう指示した。センス・メイキングは、生徒だけでなく、教職員に対しても同様に行った。管理職は、機会毎に教職員に対してその仕事の意味や意義を伝えるようにした。仕事を「意味ある仕事」「意義ある仕事」とすることで、やりがいを作るようにした。

3.2 方策1-② 教職員の自己実現を目指す OKR による教員評価

OKR とは従来の目標管理制度（従来の MBO といわれる手法）と違い、組織全体の生産性やモチベーションを向上させるためのマネジメント手法である。自分の理想や夢等のムーンショット的な O を各教職員が定め、それを共有した。そして、教職員全員が協働して、それぞれの O 実現に向けて取り組むことで、組織のエンゲージメントを高め、組織全体の活性化やモチベーションの向上に繋げることができた。組織全体のこうした変容は、個人の自己実現やウェルビーイングの向上に繋がった。

	O・・・Objective	KR・・・Key Results
質 問	何を達成したいのか？	Oに到達できたことにどのように気づく？
形 式	原則、定性的な表現。際だって誰もが鼓舞されるような表現。	一つのOに対して3つ程度にしぼる。第三者がみてもわかるような定量的なもの、またはルール遵守的な形式がよい。
性 質	ムーンショット的な目標	リーフショット的な目標。Oを実現するための仮説や達成目標。

【図5】OKRによる教員評価

3.3 方策2-① アントレプレナーシップ教育を中心とした探究的な「総合的な学習の時間」の構築

3.3.1 アントレプレナーシップ教育の開発

畑野中の考えるアントレプレナーシップとは「夢をかなえる技術」であり、「社会課題の解決」と「社会貢献」である。全体を「基礎学習」「課題発見・共通価値の創造」「ビジネスプランの策定」「プレゼン・提案」の4つのタームに分けて行った。「基礎学習」や「プレゼン・提案」では、佐渡市教育委員会、佐渡市産業振興課、子ども若者課と連携し、講師や審査委員をお願いした。ビジネスプランの最終審査を、実際に活躍している起業家の方に依頼し、優秀発表はYouTube等で保護者、地域等に公開した。



【図6】EPSの説明紙芝居



【図7】ワークシートの一例



【図8】ビジネスプラン発表会

3.3.2 探究的な「総合的な学習の時間」の構築

アントレプレナーシップ教育を中心に、1学年は畑野地区の課題解決、2学年は佐渡市の企業の課題解決、3学年は佐渡市の課題解決（起業）と、3年間をとおして探究的な総合的な学習が行えるように、カリキュラムを構築した【図9】。

1 学年【50h】	2 学年【70h】	3 学年【70h】
「佐渡学 灯籠作り」【8h】 「佐渡学 太鼓体験」【4h】 「佐渡学 畑野音頭」【6h】	「オリエンテーション」【1h】 「佐渡学 灯籠作り」【6h】	「修学旅行学習活動②」【12h】「佐渡学 灯籠作り」【6h】 「佐渡学 金山など」【4h】
課題探究活動1	課題探究活動3	課題探究活動4
地域にショップを紹介しよう【25h】 ・地域の祭りに向けて地域のお店のポスターを作成。 ・お店への聞きとり ・Keywordを集めて応募。祭り関連の商品を贈呈	課題解決型職場体験学習【42h】 ・佐渡の企業、業種調べ・マナー講座 ・生き方働き方トーク ・課題解決の提案 ・課題解決型職場体験 ・発表資料作成、発表会	アントレプレナーシップ教育【30h】 ・社会課題の解決と社会貢献 ・課題解決のプロセスを通して、教科等の「深い学び」に繋げる ・生徒の自己肯定感を高め、自己実現に繋げる。 など
課題探究活動2	「修学旅行学習活動①」【20h】	「進路進学に関わる活動【11h】
「社会福祉」【7h】 ・高齢者や障がいのある人などの暮らしに触れ、望まれる生活や福祉の在り方、平和や人権の大切さと安全な生活について学ぶ	・佐渡と京都、大阪の違いやそれぞれの課題と良さを考えよう。	「上級学校見学」【3h】 「奉仕活動」【4h】

【図9】3年間をとおした探究的な総合的な学習のカリキュラム

3.4 方策2-① 学級や学校の課題解決や貢献を目指す特別活動等の構築

3.4.1 「The personal is political.」の意義を特別活動等全体に浸透させる

「課題解決」と「社会貢献」の意味や意義を、始業式で説明した。教職員に、特別活動等で課題解決と貢献を含めた活動をするよう指示をした。

3.4.2 生徒総会や全校委員会等、生徒会活動での課題解決と貢献

全校委員会、生徒総会を、学校や学級の課題や困り感を解決の場とした。各学級で課題や困り感を話し合い、意見を生徒総会や全校委員会にあげ、徹底討論し、解決策を考えた。場合によっては学校、PTAと協働し解決策を考えた。こうした課題解決のサイクルがうまく循環し、多くの課題が解決する共に、「自分たちにもできる」「自分たちで学校を作っていく」という自己肯定感等に繋がり、生徒会活動全体が活性化してきた。



【図10】始業式での説明

3.4.3 学級活動や道徳での課題解決と貢献

3.4.2 で述べた生徒会や全校委員会の「課題解決」や「貢献」の動きが、各学級にも広がってきている。学級活動でも、積極的に学級の困り感を話し合うようになった。生徒の「課題解決」や「貢献」への意識も、確実に高まってきている。また、生徒だけでなく、教職員の意識も変わってきている。例えば、道徳の時間においても、「課題解決」や「貢献」を意識させた話し合いをもつなどの実践も見られるようになった。

3.4.4 PTA との協働による課題解決と貢献

生徒だけで解決できない問題は、保護者も一緒に PTA で解決するようにした。生徒会長が PTA 総会で、生徒と共に「課題解決」をしてほしいとお願いした。PTA 活動を生徒と協働で「問題解決」や「貢献」を行う場にするすることで、PTA 活動も活性化できると考えた。



【図 11】PTA 総会での説明

3.5 方策 3-① 子どもを主語にした「個別最適な学び・協働的な学び」への授業改革の推進

【図 4】のモデルの実現に向け、子どもを主語とした「個別最適・協働的な学び」について全職員で研修会をもった。次に校長が参画して、「単元内自由進度学習」を基にした単元構成や授業案を各教科で作り、実践する予定である。何をどの程度までを基盤能力とするかは、文科省も迷っており、難しいところであるが、畑野中での基盤能力を整理、焦点化し、明示できるようにする。それを、生徒自らが確実にフィードバックできるように評価項目を整える予定である。更に、逆に教科能力を総合等で活用・応用できるよう、総合の時間を中心に、新たなカリキュラムの内容を再編・考案中である。



【図 12】新しい学びの授業

4 実践の成果と課題

4.1 生徒や教職員の変容

生徒、教職員、保護者共に、「課題解決」と「貢献」を意識して活動に取り組む姿が数多く見られるようになった。例えば、PTA と生徒が協働して、教室のカーテンのクリーニングを行った。生徒会でも、年間スローガンに「The personal is political.」を掲げ、トイレの時計の設置など、生徒から出た意見を基に、課題解決に主体的に取りくんでいる。道徳や学活での同様の取組等、生徒や教職員の確実な変容を実感している。

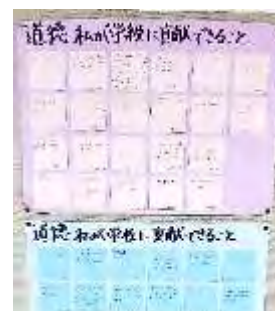


【図 13】PTA との協働活動

4.2 学校評価より

下表は学校評価の生徒アンケートの結果である。自己実現に関わる評価項目で肯定的評価の上昇が見られた。 ※数値は各評価項目で肯定的な評価をした生徒の割合

評価項目	R5 前半	R6 後半	R7 前半
1 学校生活で自分が活躍できる場があった。	74.2	80.0	83.1
2 自信をもって自由に発言できるようになった。	72.0	81.3	85.7
3 学校が楽しい充実していると感じている。	88.2	81.3	92.2



【図 14】道徳での実践

4.3 R7 全国学力・学習状況調査より 【資料 2】

	質問項目(左欄の数字は質問番号)	畑野中	全国比
②	41 学級生活をよりよくするために解決方法を決めているか	6.416	0.162
④	58 数学でどのように考えたか説明する活動をよく行っているか	6.838	1.524
⑤	40 総合学習では自分の課題を立てて～調べたことを発表する取組	6.082	-0.010
	43 道徳の授業では自分の考えを深めたり～話し合ったりする活動	6.832	0.090
	57 数学でわからないときもあきらめずに色々な方法で解く	6.250	0.190
⑥	27 地域や社会をよくするために何かしてみたいか	5.754	-0.076

※②④⑤⑥はウェルビーイングの6つの構成要素。畑野中の数字はウェルビーイングのスコア値で0～10の10段階で5.000が中央値になる(値が大きいほど良い)。

異母集団なので単純な同年比較はできないが、主に左の項目で成果がでていいる。これらは本実践の手立ての成果と見ることができる。しかし、「将来の夢や目標」の項目等、まだまだ課題はたくさんあり、改善に向けて努力を続けていきたい。